

令和6年度 都城市立夏尾中学校 学校評価

夏尾中 No 1

【4段階評価 A (4) そう思う B (3) ややそう思う C (2) あまりそう思わない D (1) そう思わない】

○ 知育

重点目標	目標達成のための努力実践事項	学校の自己評価コメント (○は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから)	記号	関係者 記号	学校関係者コメント
<p>・きめ細かな学習の推進による学力向上</p> <p>評価 一人一人の学力を保障する。 (成績下降者0人)</p>	<p>① 個に応じた指導の充実を通して確かな学力の向上を図る。 *改良した個別の学力向上プランに基づいた指導と検証、見直し</p>	<p>○ 個別の学力向上プランを改良し、職員研修において、個々の授業中の様子や学習状況の共通理解を図り、個に応じた指導に役立てることができた。</p> <p>◎ 「授業のわかりやすさ」についてのA・B評価は、生徒89%、保護者78%。生徒の評価は高いが、各種テスト結果から学力向上につながっているとはいえない。個々のテスト結果の分析を行い、学習指導にいかしていく必要がある。</p>	3.5	3.8	<p>○ わからないことをわからないと言える雰囲気大切である。</p> <p>○ 学ぶことが楽しいと言える学校づくり大切である。</p> <p>○ 人を思いやり、共に学ぼうとする力を育ててほしい。</p>
	<p>② 表現力の向上を目指す。 *「表現の時間」の工夫</p>	<p>○ 校内研究において、「表現の時間（読解）」「SSTの時間」を設定し、各研究班で生徒の実態に応じた取組を行ってきた。</p> <p>◎ 「表現力がついてきているか」についてのA・B評価は、生徒77%。生徒の様子やワークシートからも成果が上がってきていることが伺える。</p>			
	<p>③ 研究授業を通して授業力の向上を図る。 *一人年間1回以上 *子ども達が主役の授業の推進、「授業参観視点表」の活用、ICTを活用した授業改善</p>	<p>○ 1人1研究授業を実施。授業参観視点表を見直し、参観の視点を絞り、事後研究会において、子供たちが主役の授業、ICTを活用した授業についての意見交換や情報共有を行い、授業改善に生かすことができた。</p> <p>○ 全教科においてICTを活用した授業を実施している。また、生徒のQubenaの活用を推進するため、10月からQubena月間賞を設け、毎月表彰を行った。</p>			
	<p>④ 検定資格取得を推進する。 *漢字検定・数学検定・英語検定</p>	<p>○ 漢字検定年3回実施 総受検者数24名、英語検定年3回実施 総受検者数1名、数学検定年1回実施 総受検者数4名</p> <p>● 受検者に各種検定に向けて、学習を促す仕掛けが必要である。</p>			
	<p>⑤ 学力調査結果から授業を検証する。</p>	<p>● 学力調査の分析結果を授業にいかすまでには至っていない。</p>			
	<p>⑥ キャリア教育の視点に立った進路指導を充実する。</p>	<p>○ 今年度は、市の事業や社会福祉事業の講座などを活用し、外部講師を招き、職業講話をしていただき、将来について考える機会を多く設定した。</p> <p>◎ 自分の進路について考えていることに対するA・B評価は、生徒72%、保護者75%。昨年度と比較すると保護者の意識が10%低くなっており、家庭への啓発が必要である。</p>			

《課題と改善点》

- 今年度より取り組んでいる「表現の時間（読解）」「SSTの時間」が授業や学校生活でいかされるよう、対話や協働を通して、生徒が楽しいと感じる授業づくりの工夫をしていく。
- 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校全体で取り組む授業の土台づくりハンドブック」を活用し、「すべての子どもにとって過ごしやすい環境づくり」や「分かる！できる！を実感できる授業づくりの進め方」を学校全体で推進していく。

○ 徳育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価（○●は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから）	記載	関 連 説	学校関係者コメント
・命を大切にする、思いやりのある生徒の育成 評価 生活意識調査で一人一人の状態を把握する （生活に関する負の内容 10%以下）	① 道徳科の授業の充実を図る。 (授業研究会の実施) *「主体的・対話的で深い学び」の実現	○ 6月の参観日に道徳の授業参観を実施し、保護者参加型の授業も実施した。 ● 授業研究会、道徳の授業に関する研修会は実施できていない。授業においては、少人数のため多様な価値観に触れさせる授業の工夫が必要である。互いの授業を参観できる教育課程の工夫、また校内研修として、道徳の授業も1名実施することを検討していく。	3.5	3.7	○ 少人数であることはプラスもありマイナスもあるが、少人数だからこそ助け合う力が身に付いてきていると感じる。 ○ 大きな集団の中でも、物怖じすることなく誰とでもコミュニケーションをとれる力を身に付けてほしい。
	② 命の大切さを考える集会を充実させる。 *講話後の感想による変容の確認	○ 生徒の実態を考慮し、全職員がそれぞれ工夫して、命の大切さについて考える集会で、講話を実施しており、その内容も充実している。また、生徒も真剣に聞き入っており、集会後の感想からも講話の内容について真剣に考えていることが伺える。 ◎ 自分や他の人の命について考えることができているかの A・B 評価は、生徒 95%、保護者 83%であった。保護者の評価からも家庭でも話題になっていることが伺える。			
	③ 対人関係能力を育成する。 *ソーシャルスキルトレーニングの実施	○ 校内研究の取組内容の一つとして、ソーシャルスキルトレーニングを実施した。トレーニングの内容を生徒の実態を考慮し、研究班で吟味しながら工夫して取り組んできた。生徒もこの時間を楽しみにしており、表情や発表の場面、会話のやり取りから生徒の成長が感じられる。また、今年度は、西岳中との体育の交流授業も実施した。 ◎ 自分の考えをもったり、表現したり、伝えたりする力がついてきているかの生徒の A・B 評価は 77%であった。			
	④ 生徒会活動を通して主体性を伸ばす。 *あいさつ運動、美化活動、ボランティア活動等	○ 生徒の様々な活動場面で、全職員が、生徒が考え行動する声掛けを行い、主体的な活動を促している。 ○ 今年度は御池少年自然の家の山びこ祭に 10 名の生徒がボランティアとして参加した。 ◎ 生徒会活動に意欲的に取り組んでいるかの A・B 評価は、生徒 55%。生徒が自ら考え行動する手立てを考え、達成感や充実感を味わえる場面を増やしていく。また、西岳・夏尾地区に限定せず、ボランティア活動の紹介なども積極的に行っていく。			
《課題と改善点》 ○ 対人関係の育成に向けて、今年度の取り組み以上の生徒の実態により即した「SST トレーニング」を推進していく。 ○ SST トレーニングを実際の場面でいかすことができるよう、今年度実施した西岳中との交流授業をはじめとし、他と交流を図る場面を意図的、計画的にいれていく。					

○ 体育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価コメント（○は職員の考察　◎は生徒・保護者アンケートから）	記 説	関 緒 説	学校関係者コメント
・ 健康でたく ましい体づくり と食育の推進 評価 食と防災に 関する生徒 の意識を 向上させる （A・B 評価 食 75%、防 災 80%以上）	① 日常的な体力づくりを行う。 *授業を中心とした体力づくりの工夫	○ 今年度は朝の活動を取り入れ、朝から体を動かすことで生徒の心身の状態が整い、朝のスタートがスムーズにできていると感じる。また、生徒の運動量を増やすことで、体力向上も期待できる。 ◎ 学校生活や部活動を通して、体力が向上しているかの A・B 評価は生徒 83%、保護者 92%で昨年度より高い。運動を苦手とする生徒の割合は高いが、その中でも特に部活動でのがんばりを生徒、保護者ともに感じている結果だと言える。	3.5	3.7	○ 日頃から、危険予測や回避能力を育成するための指導が必要である。
	② 望ましい食習慣の形成を行う。 *食に関する指導の工夫と家庭と連携した弁当の日の実施	○ 昨年度に引き続き、食に関する学習会を実施した後、弁当の日に向けた事前学習会を行い、2 回弁当の日を実施した。振り返りアンケートやワークシートから生徒は学習したことを基にしながら、弁当作りを楽しんでいることが伺えた。 ◎ 弁当の日に取り組むことができたかの A・B 評価は生徒 95%、保護者 100%。家庭において、親子で弁当の日に取り組んでいることがわかる。			
	③ 性教育の充実を図る。 *年間指導計画の確認と見直し及び授業実践	○ 学校保健委員会として、保護者にも案内し、産婦人科医による性教育の授業を実施した。また、各学年において、養護教諭が生徒の実態に応じて性教育の授業を行った。 ◎ 子宮頸がんワクチンを接種させるか否かを悩んでいる時期で、講師の先生から知識を得ることができて大変勉強になりました。（参加された保護者の感想）			
	④ 危機管理の徹底及び防災対応能力を育成する。 *家庭を巻き込んだ防災教育	○ 地震・噴火（引き渡し訓練）・火災による避難訓練を実施した。特に地震については、昨年度の反省、1 回目の避難訓練の生徒の状況を鑑み、シェイクアウトに合わせてさらに1 回実施し、その後抜き打ちでも実施し、計 3 回行った。 ◎ 災害時に自分の命の安全を守るための力が身に付いているかの A・B 評価は、生徒 88%、保護者 75%。生徒の意識の高さは今年度の取組の成果である。今後、家庭をさらに巻き込んだ防災教育の在り方の工夫をしていく。			
	⑤ 部活動を充実させる。	○ 休養日を適切に設定して実施している。生徒の活動の在り方を、選手に限らず、支える立場などの組織の一員として活動する方法も含めて今後検討していく。 ◎ 学校生活や部活動を通して、体力が向上しているかの A・B 評価は生徒 83%、保護者 92%で昨年度より高い。			
	⑥ 立腰指導を充実させる。	○ 立腰指導においては、指導にばらつきが見られるが、授業開始と終了時の立腰、黙想は概ねできている。 ● 再度職員で共通理解を図り、共通実践していく。			
《課題と改善点》 ○ 運動を苦手とする生徒の割合が高いため、今年度に引き続き朝の活動を継続しながら、生徒の運動量を増やす工夫をしていく。 ○ 防災対応能力を育成するため、生徒が主体的に参加する防災活動の工夫を図っていく。					

○ 保護者・地域と連携したふるさと教育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価（○は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから）	記 説	関 緒 説	学校関係者コメント
・保護者・地域 とともにある、 地域に根ざした 学校の創造 評価 地域との関わり への生徒の意識 を向上させる （A・B評価5 0%以上）	① 情報発信のために各種通信やホームページを充実させる。	○ 学校便りを月1回発行、各学年週1回の通信発行、ホームページは随時更新を心掛け、学校での生徒の活動の様子を家庭や地域に発信できた。 ◎ 学校からの文書を保護者に提出することについてのA・B評価は生徒83%、保護者75%である。学校からの文書が保護者に届いておらず提出物がでないこともあったため、引き続きシグフィーを活用していく。	3.5	3.5	○ スマホやゲームの時間を決めるなどの家庭でのルールづくりが必要である。 ○ 家庭への啓発のための講話の工夫のあり方の検討も必要である。 ○ 地域連携において学校は一生懸命であるが、地域の人の学校に対する関心がないように感じる。
	② 地域行事への積極的な参加・交流により相互理解を図る。	○ 梅収穫、GG大会、ふるさと探訪、地域の清掃活動、職場体験学習、職場訪問、地域料理教室など地域の方々の協力を得て実施できた。今年度は鑑賞教室（演劇）に、自治公民館長さんの協力で夏尾・御池地区の全家庭に案内を行い、地域の方に足を運んでいただく機会となった。3学期は昨年度に引き続き、アスリート派遣事業で外部講師による授業も計画しているので、地域の方々にも案内、学校公開を行い、地域に根ざした学校の創造を進めていく。 ○ 「西岳地区社会教育福祉総合研修会」にて、3年生が福祉学習の発表を行うことができた。また、西岳地区のふれあい文化祭にも参加し、文化祭を親子で楽しむ姿が見られた。 ○ 今年度は、御池少年自然の家のやまびこ祭りにボランティアとして10名が参加した。今後は、総合的な学習の時間などを通して、地域のために何ができるか生徒に考えさせていきたい。 ◎ 学校や地域の行事への積極的な参加についてのA・B評価は生徒83%、保護者92%である。山びこ祭やふれあい文化祭への参加の結果だと思われる。			
	③ 学校運営協議会を充実させる。	○ 今年度は、学校の施設設備に係ることや学校行事等で支援していただきたいことを学校運営協議会の中で協議し、委員の方にご協力いただいた。委員の方々からは常に学校のために何かできないかとの声掛けをしていただいている。子どもを通して、保護者と地域がつながる取組を検討していく。			
	④ 保護者と教育的課題を共有する。	○ 保護者送迎の際に、積極的に職員から声を掛け情報交換や情報共有はできている。 ◎ スマホやゲームなど時間を決めて利用しているかについてのA・B評価は生徒50%、保護者42%で、約半数の家庭がスマホやゲームの利用時間が決められていないようである。このことは生徒の学力との関係や家庭での学習習慣にも大きく影響してくることであり、本校の課題のひとつとして、保護者への啓発や取組を考えていく必要がある。			
《課題と改善点》 ○ 地域の方が学校に関心をもって、学校に足を運んでいただける工夫をしていく。 ○ 家庭でのスマホやゲームの利用時間については、保護者からも参観日の懇談などで話題となった。家庭と学校で連携しながら、保護者や生徒の意識を高めていく取組が必要である。					